
科学と正義となまけもの

Kakki

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

科学と正義となまけもの

【Zコード】

N4102N

【作者名】

Kakki

【あらすじ】

科学の発展した世界で18歳という若さで軍人として戦争にでる若者たち。

彼らはこの戦争を通して

恋や友情、そして正義について悩むことになる。

自分たちが戦っている意味・・・

「正義」の意味・・・

人の心・・・

彼らがそれらの向こうに見えるものとは!?

プロローグ（前書き）

初投稿です。

暖かい田でJ覧になつてください。

一応ジャンルは恋愛、コメディ、シリアス要素を含んだSFものに
したいと思います。

プロローグ

500×年人類は驚異的な科学の発展を迎えた。

日本に人類の進化した存在ともいえる、桁外れの頭脳を持った科学者が現れたからだ。　彼が作り出すものは今までの常識をことごとく壊していった。　彼からすれば科学でわからないものはなかつた。

日本は一気に他の国を抜き去り日本の科学力は世界を置いて行つた。

しかし、その肥大した科学は日本を凶悪なものへと変えた。　怖いものなしどなつた日本はその桁違いな科学力を持つて他の国へ戦争を仕掛けだしたのだ。

特に兵器の開発を進めた日本を世界で止められる国はなかつた。やがて日本にすべての国が服従せざる負えなくなつた。

実質世界は一つの国となつた。

他の国を蔑み、奴隸のように扱う日本は悪魔と化していった。暴走した科学の恐ろしさを知つたその科学者は自分の科学力を集体させた兵器「オロチ」を開発し、自らの力で日本を滅ぼした。

そして、世界を新たに4つの国へと分けた。

抑制しあう敵がいたほうが互いに平和でまた切磋琢磨しあえると思つたからだ。

科学者が思つた通り、2000年は小さな小競り合いはあつたものの平和に過ごすことができた。

だが、今その均衡もやぶられようとしていた。

今、世界には4つの国がある。

高い壁によつて4つに分割されていたためにほとんど鎖国の状態でずっと均衡していたのでそれぞれ違う形で科学の発展を遂げた。

生物学の発展を遂げ、キメラなど新しい生物兵器の開発に力を入れ、研究のためなら犠牲をいとわないことで知られる「ハザード国」大森林ヒヤリオンを中心とした広大な土地が特徴的で見たことないモンスターと呼ぶべき生物が普通に歩いている。また、深い森の中にこの国の中核である秘密都市「帝都ダンブルス」があるため、ほかの国は中枢であるその都市の正確な位置を把握できない。

地球自然学や宇宙学の研究にたけ、火山の噴火や地震の誘発、植物の成長などを自由に操ることに成功した「ヤムド・アポロン国」自然を操る技術を手に入れたことにより、領土面積が4つの中で一番小さい割に食料や資源が豊富。いろんな場所に観測所がある。中核都市は城壁に囲まれている「城都シンボル」。城下町は商業区、工業区、居住区に分かれている、その中心にシンボル城がある。またペリウス教という特有の宗教が広がっていること有名。

機械工学の発展を遂げ、機械人形や人型兵器「機神」の開発に成功し、兵器の開発にもつとも長けていると言える「エルモア王国」人口がほかの国の十分の一しか満たないこの国は機械人形の開発に

成功したことにより兵力の差を補つた。また人が操縦する「機神」は莫大な軍事費を必要とするため、大量生産はできないが一機で戦局を左右するぐらいの戦力を持つ。中枢都市は「王都キングス」であるが、この都市は都市であるとともに要塞でもある。また都市ごと移動が可能で6本の巨大な足で動く

そして、新しい物質の開発を中心とする新分野、創造科学を開拓した「ワノクニ」

この国は実質かつての日本を継いだ形となる。この国最大の特徴は開発した物質によって作り出された兵器「ファイ」を武装した軍隊「紅蓮十字軍」である。この軍は唯一エルモアの機神と対抗できる軍隊と有名で、戦力としてはトップクラスを誇る。中枢都市は紅蓮十字軍本拠地でもある「軍都ヤマト」。

今はこれらの国を分ける壁は破壊され、国境として「二つの国にも属しない地域「ノーバティ」が広がっている。

登場キャラクター

登場キャラクター多いので最初に主要キャラ紹介します。

十番隊メンバー（全員18歳）

レン
十番隊隊長。男。175センチ。大酒飲み。（注 酒は二十歳から）

基本的にめんべくさがり屋だが実力と統率力はある。ボサボサの黒髪。眼がはつきりしていて美形だがどこかなく猫に似ている。十番隊で唯一軍服を着ている。

「最初からいたらつかれるだろ！……！」

キヨーカ

レンに使える人間型機械人形。170センチ。一応女。常に無表情・無感情。だがレン直伝のボケを使う。黒の長髪。常にメイド服。

「イエス、マスター」

ジャック

ヤンキーのような見た目と言動をする男。声がでかい。180センチ。

茶髪で横をそつていて前髪を右側だけ垂らしている。黒いシャツに白いパンツをはいていていかにもヤンキー。

「ううせえんだよ……てめえ!!……」

リリ

おつとりしていていつも二二二二している女の子。160センチ。薄い金髪でとじるどじるクセつ毛ではねている。落ち着いた印象の服を着こなす。

「みんな見えないね~」

サイト

クールな印象を持つ男。しかし無口ではない。リリに好意を持つているが気づかれない。185センチ。

肩にかかるぐらいの茶髪。シャツにネクタイを締めた恰好をしている。

「……バカばっかりだな。リリは……」

マリヤ

おどおどしていて泣き虫な女の子。だが守つてやりたくなる感じで男からは人気。152センチ。サイトが好き。

茶色のふわふわした長髪。セーラー服のような服を着ている。

「わっわたしですっ!!!!」

ディアス

どこか貴族のような雰囲気を持つ男の子。ナルシスト。自分が許した人以外が触るのを嫌う。168センチ。七二に分けた金髪。白いスーツを来ていてる。

「君が僕に触るなあ！……！」

セシリ

チャラい男の子。とにかくチャラいがツツコミかついじられ役。170センチ。

茶髪の髪を盛つていてる。服装はもちろんチャラい。

「俺ならどおっすか！？」

ジャスティア

ヒーローのような振る舞いの男。普段もヒーロー番組の仕事をしている。子供に人気。178センチ。

黒の短髪の爽やかな男。服装はライダースジャケット。

「はつはつは……この世に悪は栄えない……！」

ユリエ

古風な女の子。堅苦しい口調で話す。十番隊のまとめ役。170センチ。

黒の長髪を後ろで束ねていてる。服装は武士の鎧のよつなもの。

「私たちは軍人なのだ。」

ヤハラギハシコモゼン . . .

第一話 十番隊

（紅蓮十字軍本部）

ガヤガヤと軍服を着た兵達が行き交っている廊下で軍服を着ていな
いひときわ目立つてゐる集団がいた。

周りの兵はそれを見てひそひそと話している。

「おい、あれ十番隊だぜ」

「ああ、あの隊だけで機神を何体も相手できるらしいな」

「見た感じただのガキなのにな」

そんなことを話していると後ろから先輩らしき兵が近づいてきて、
話しかけてきた。

「お前らまだ十番隊と一緒に戦場に出たことないだろ。出てみれば
わかるさ。あいつらは桁違いだ。中には一人で機神を相手できるや
つもいるらしい」

その話を聞いた兵達は驚きを隠しきれてない。

なぜなら機神はたいてい隊の半分以上の兵を使って相手をするから
だ。それを一人で相手するとは彼らにとつて人間とは思えないから
だ。

「それなら軍服が違つても文句言えないな」

「ああ、あと武器が違うのもな！」

通常の兵は筋力補助とダメージ軽減の能力を持つた軍服にビームシールド、ビームセイバーという装備が普通だ。しかし、十番隊は軍服ではなく特注服を着ていて、武器もそれぞれ違う。

その訳を話すためにまた先輩が口を開けた。

「それはな、ジユドーさんがかかわっているらしいぞ」「ジユドーとは、十番隊の指揮官であり、紅蓮十字軍副長つまり紅蓮十字軍ナンバー2である。

「やつぱす」いなあ十番隊は。早く実力を見てみたいなあ

「ああ、そうだ・・・

言葉の途中に警報が鳴り響いた。

「エリア313にて敵戦艦3機潜入を確認。兵はエルモアで機神も出動している模様。至急、3番隊、6番隊、10番隊は戦場へ向かわれたし。ワープポイントは4・5・6・7番ゲートを開通。繰り返す・・・」

「おい、うわさをすればさつそく來たじゃねえか。頑張つてこいよ

「！」

「「「了解」」

兵達はあわただしく戦場へ向かうのだった・・・

戦場エリア 313

戦場には似合わない恰好をした集団が戦艦が来るのを待っていた。

「まだ、レンとキョーカは来てないのか」

鎧を着た女がイライラしたように囁く。

「まあまあ、ユリエちやん。いつものことじやないですか」

いかにもキャラ男がユリエをなだめる。

「はつはつは……そうだぞ……正義は遅れてやつてくるものだからな……！」

「ジャスティア声でかいっす」

するとジャスティアよりもさらに大きな怒声が響いた。

「ううせんだけだ……ひめみや」

「ジャック！ 君つてやつは・・・マコヤさんがびっくりしたじゃないか」

その大きな声に横にいた女の子がびくっと肩を揺らす。

すると耳についている通信機から声が聞こえてきた

「・・・遊んでいる暇はないぞ。」

おつとりした声が割り込む

「敵さん来ましたよ」

「了解。サイトとミラは狙撃を、セシリ、ディアス、私は左方から。ジャスティア、マリヤ、ジャックは右方から攻め込むぞ」

「「了解」」

今戦いが始まるかと見てゐるときある男がベッドから滑り落ちた。

「うーーーん…………」

まだぼんやりしてこの眼をこすりながら起き上り眼を開けると皿の前にメイド姿の女が立っていた。

「お前、こいつから逃げた

女は恭しく答える。

「わよひびく時間58分前でござります」

「起きて……！」

メイドは一礼して

「申し訳ありません、マスター。起きたと申いましたがマスターの寝顔を見ていると、どうでもよくなつ起きの断念いたしました」

「俺の寝顔、関係なくね？」

メイドは顔をあげて

「やことよつマスター。先ほど戦闘の要請がきましたが、どうしますか？」

男は髪を搔き上げて、ため息をついた。

「こつもじつ、ゆくつ準備しよう」

「イエス、マスター」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4102z/>

科学と正義となまけもの

2011年12月15日22時54分発行